

## 沖縄県辺野古

# 新基地建設**反対!!**

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設を巡り、防衛省は20日、海底に軟弱地盤の広がる大浦湾側での護岸造成に向けて、金属製のくい打ち込みを始めました。1月から予備的な作業を始めていましたが、埋め立ての本格工事に着手した形となりました。反対する沖縄県を押し切った形となりましたが、海底の軟弱地盤は前例のない規模の工事で難航する可能性があります。新基地の滑走路は約1,800mで使い勝手が悪いとされています。

昨年12月の国側による設計変更承認の代執行を経て、防衛省は今年1月、大浦湾側で材料の仮置き場とする会場ヤードの設置工事を開始しました。今回のくい打ち作業は、埋め立て海域を囲む形でコンクリート製の護岸を整備するものです。その内側に土砂を投入していきます。

沖縄県の玉城デニー知事は、記者団に対し「国民の税金を無駄に投入することなく、直ちに基地建設を中止すべきだ」と述べています。

日米両政府は1996年、沖縄県宜野湾市の「世界一危険」とも言われる米軍普天間飛行場の返還で合意し、日本政府は99年に名護市辺野古への移設を閣議決定した。2006年にV字形で長さ約1800mの滑走路を建設する現行の計画が決まった。米軍キャンプ・シュワブがある辺野古の沿岸部南側と、軟弱地盤がある大浦湾側を埋め立てる。普天間飛行場の基地機能のうち、輸送機オスプレイの運用など一部を移す他、弾薬搭載エリア、係船機能付き護岸を備える予定。

